

哲學論集

第54号 2007

論文

- ためらいの現象学 門脇 健 (1)
 ——レヴィナスと読むヘーゲルの『ハムレット』解釈
- 環境倫理における「専門家」と「役に立つこと」 神崎 宣次 (21)
- フッサール『イデーン II』における身体構成の問題 奥田 万里子 (40)
 ——感覚態とキネステーズ・運動感覚
- 純粹自我と厳密学との関係について 竹中 正太郎 (53)
- レヴィナスにおける「応答-責任」の主体性 村田 知子 (65)
 ——他者との出会いについて——
- 主権をまえにした外国人 古屋 哲 (76)

研究ノート

- 中部ジャワの上演芸能における音楽に関する考察 矢野 博之 (94)

学会活動報告

大谷大学哲学会

大谷大学哲学学会会則

第一条 (名称)

本会は大谷大学哲学会と称する。

第二条 (目的)

本会は、広義の哲学の研究と発表を行い、各学問領域の交流を盛んにして、学界に寄与することを目的とする。

第三条 (事業)

本会は、下記の事業を行う。

1 会誌『哲學論集』の発行

2 その他必要な事業

第四条 (会員)

本会の会員は、大谷大学哲学諸関連学科に所属する教員、大学院学生を中心にし、本会の趣旨に賛同する者とする。入退会は、第五条の2に定める委員会において、これを承認する。

但し、三年分の会費を滞納した者は会員資格を喪失するものとする。

第五条 (役員)

本会は、下記の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。

1 会長 本会を代表し、運営における責任を負う。

第六条 (総会)

2 学会委員 若干名をもって委員会を組織し、総会の決議に従い、本会の運営にあたる。

3 会計監査 会計を監査する。

1 総会は、下記の事業を審議し、議決する。

(イ) 会長及び学会委員の選出

(ロ) 予算及び決算
事業方針

(ハ) その他必要な事項

2 総会は、会長が召集し、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

第七条 (経費)

本会の経費は、会費(年額50000円。但し、学生会員は、博士課程学生30000円、修士課程学生20000円とする。)及びその他の収入による。

第八条 (会計報告)

各年度会計報告は、総会において行う。

第九条 (会則の変更)

本会則の変更は、総会において出席者の2分の1以上の同意を必要とする。

附則

1 本会則は、一九七九年四月十五日一部改正。

2 一九八二年五月十五日一部改正。

3 一九八九年五月二〇日一部改正。

4 一九九五年四月二二日一部改正。

5 二〇〇七年五月二六日一部改正。

『哲學論集』投稿・審査規程

編集後記

- 一、本学会員の内で、本会誌への投稿希望者は事前に編集委員へその旨を連絡すること。
- 二、投稿希望者には編集委員から改めて正式な執筆依頼がなされる。原稿の締切は十一月末とする。
- 三、投稿された論文(研究ノートを含む)は、審査を経て採否が決定される。
- 四、投稿された論文(研究ノートを含む)の審査は、原稿ごとに編集委員および編集委員が選任委嘱する審査委員(若干名)によって行われる。
- 五、審査の結果は以下の通りとし、「条件付き採用」および「不採用」の場合には、執筆者にその理由を通知する。
 - ① 採用
 - ② 条件付き採用(修正がなされば採用)
 - ③ 不採用
- 六、上記の規程は、『哲學論集』第五十三号より適用される。

『哲學論集』第五十四号をおとどけ致します。本号には、当初の予定を上回る原稿が集まりました。そのため、より多くの先生方に審査委員をお引き受けいただくことになりました。ご多忙の中、原稿の採否判定を含め、適切なコメントをしてくださったこれらの先生方に、厚くお礼申し上げます。掲載された論文や研究ノートには、細部まで改善のあとが見られます。ぜひご一読くださいますように。

編集委員

朴・関口・滝口
志藤・古谷・竹中

哲 學 論 集

第54号

2008年3月11日印刷
2008年3月18日発行

編 集
発 行

大谷大学哲学会

代 表 者 皇 紀 夫

〒603-8143
京都市北区小山上総町
大谷大学内 (TEL 075-432-3131)

印 刷 (株)土倉事務所

二〇〇七年二月十三日

大谷大学哲学会

TETSUGAKU RONSHU

THE PHILOSOPHICAL STUDIES

No. 54

2 0 0 7

Articles

Die Erscheinung des zaudernden Wissens: KADOWAKI Ken (1)
Lévinas und Hegel

“Professionals” and “Effectiveness” KANZAKI Nobutsugu (21)
in the Discourse of Environmental Ethics

Die Konstitution des Leibes im Husserls *Ideen II* OKUDA Mariko (40)

Die Beziehung zwischen dem reinen TAKENAKA Shotaro (53)
Ich und der strengen Wissenschaft

La subjectivité comme 《responsabilité》 MURATA Tomoko (65)
chez Lévinas : sur la rencontre avec l'Autre

Foreigners standing before the Sovereignty FURUYA Satoshi (76)

Notes

Notes on a musical aspect of the *Jathilan* YANO Hiroyuki (94)
performance in Java

Announcements

THE OTANI PHILOSOPHICAL SOCIETY
OTANI UNIVERSITY